

FY2023

2024年1月11日

2023年11月期 決算説明会資料

見えないけれど、あなたのそばに



大阪有機化学工業株式会社

東証 プライム：4187

01

2023年11月期 決算概要

02

2024年11月期 業績予想

03

企業価値向上に向けた取り組み

04

参考資料

外部状況

コロナ禍からの経済活動の正常化が進み、景気は緩やかな回復傾向が続きました。一方、中国経済の停滞や物価高、地政学リスクの高まりなどにより、依然として不透明な状況が続いています。

売上高

ディスプレイや半導体などの需要低迷の影響を受け、電子材料事業を中心に売上高が減少しました。この結果、売上高は前年同期比10.3%減少の、289億7百万円となりました。

営業利益

売上高の減少や原燃料価格の高止まりなどの影響により、営業利益は、前年同期比39.7%減少し、35億7千7百万円となりました。

(百万円)

	2022/11 実績	2023/11 予想値	2023/11 実績	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高	32,236	29,000	28,907	△3,329	△10.3%
営業利益	5,934	3,800	3,577	△2,357	△39.7%
経常利益	6,365	4,000	3,877	△2,487	△39.1%
純利益*	4,725	2,800	3,270	△1,454	△30.8%
国内ナフサ (¥/KL) (当社推定)	76,150	72,000	68,150	—	—
為替 (¥/\$)	129	133	140	—	—

*親会社株主に帰属する当期純利益

営業利益の増減要因

化成品・電子材料事業の売上高の減少や、在庫評価減による原価上昇、減価償却費の増加などにより営業利益は前年同期に対し、23.6億円の減少となりました。

売上高の減少
△33.3億円 ↓

売上原価の減少
△10.0億円 ↑

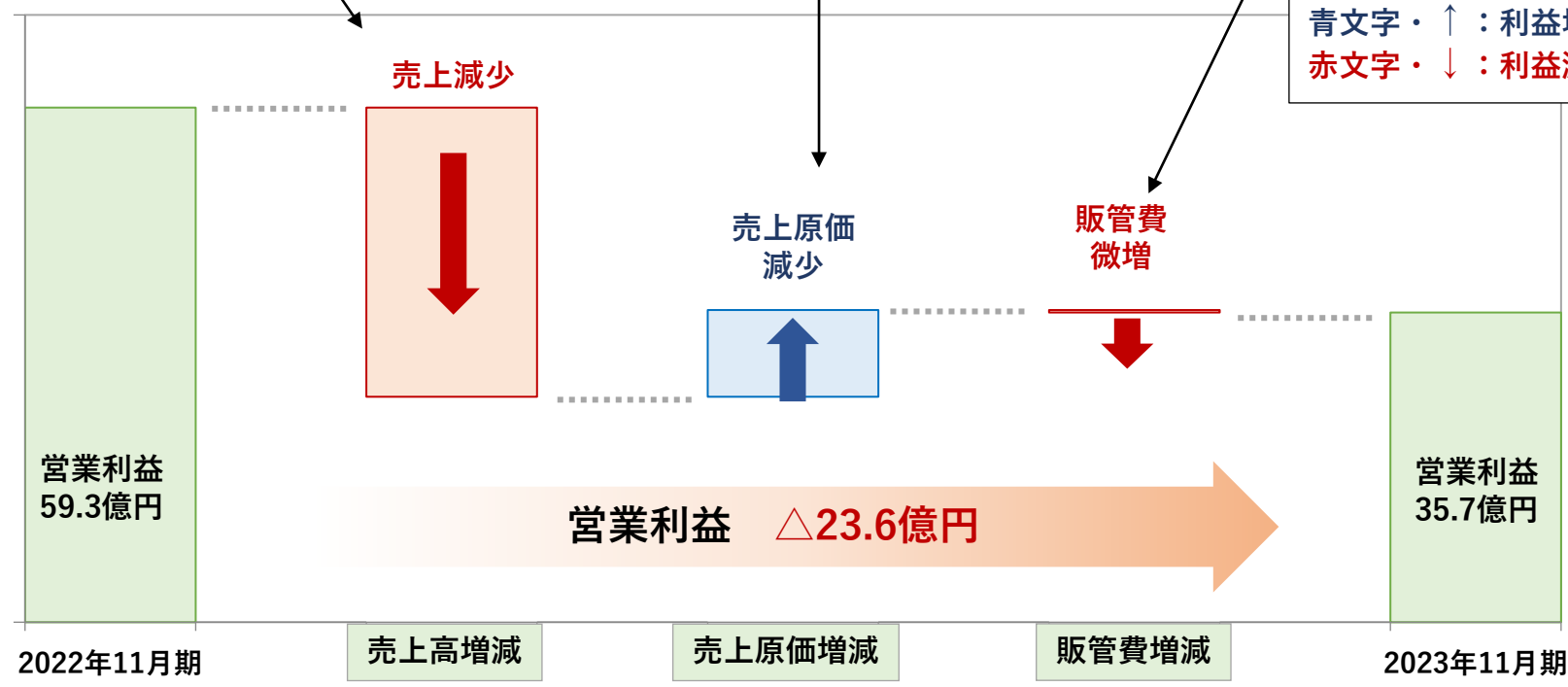
販管費の増加
+0.3億円 ↓

化成品	△7.4億円
電子材料	△24.4億円
機能化学品	△1.5億円

原材料費	減	△13.7億円
在庫評価	減	+3.9億円
労務費	増	+0.2億円
電力費	増	+1.3億円
減価償却費	増	+0.1億円
他		

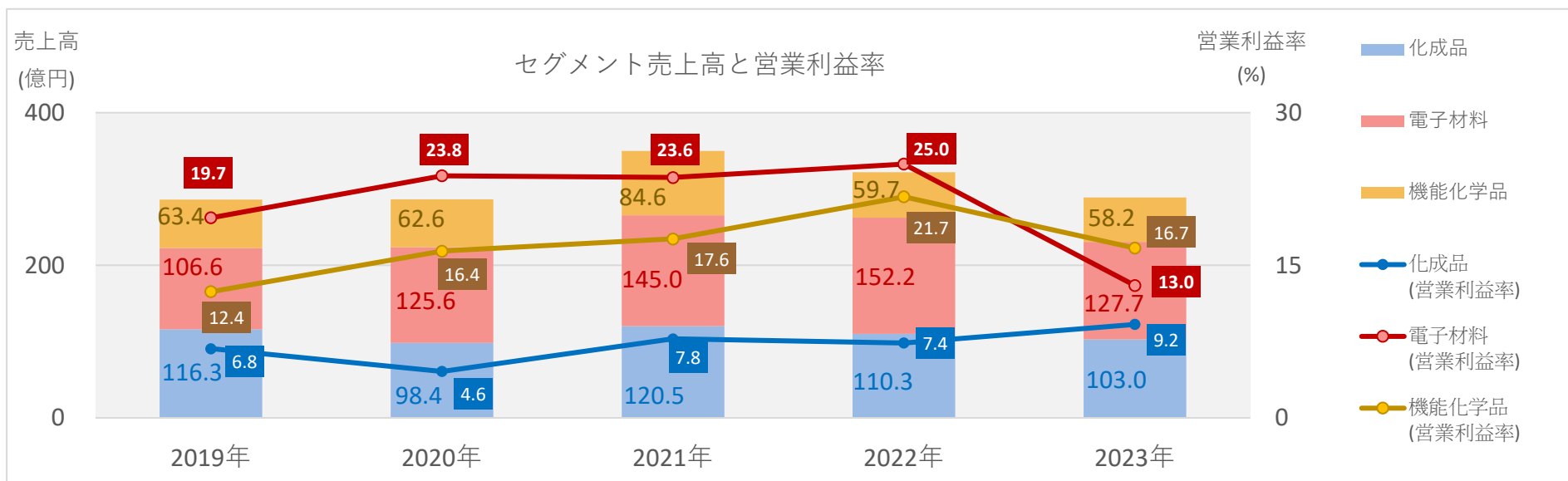
減価償却費	増	+1.4億円
人件費	減	△0.4億円
運送費	減	△0.3億円
その他経費	減	△0.4億円
他		

青文字・↑：利益増加要因
赤文字・↓：利益減少要因



セグメント実績

	化成品	電子材料	機能化学品
概要	<p>◇自動車用塗料向けの販売は、自動車生産の回復に伴い、堅調に推移しました。</p> <p>◇ディスプレイ用粘着剤向けや、UVインクジェット用インク向けの販売が減少しました。</p> <p>◇メタクリル酸エステルグループは、販売が大幅に減少しました。</p>	<p>◇半導体材料グループは、最先端のEUVレジスト用原料は好調に推移。主力のArFレジスト用原料は、需要減少による在庫調整が続き、販売が低調に推移しました。</p> <p>◇表示材料グループはディスプレイの需要低迷により低調に推移しました。</p>	<p>◇化粧品原料グループは、販売が海外で好調に推移いたしました。</p> <p>◇機能材料グループは、受託品の販売が低調に推移いたしました。</p> <p>◇子会社の高純度特殊溶剤の販売は堅調に推移いたしました。</p>
売上高	103.0 億円 (YoY: △6.7%)	127.7 億円 (YoY: △16.1%)	58.2 億円 (YoY: △2.5%)
営業利益	9.4 億円 (YoY: +16.5%)	16.6 億円 (YoY: △56.2%)	9.7 億円 (YoY: △25.1%)



* 2022年度より「収益認識に関する会計基準基準」等を適用

01

2023年11月期 決算概要

02

2024年11月期 業績予想

03

企業価値向上に向けた取り組み

04

参考資料

通期業績予想

2024年11月期は、半導体市場は引き続き低調に推移するものの、徐々に回復傾向に向かうと予想されています。また、昨年投資した半導体材料製造設備の減価償却負担が増加します。当社業績予想は、売上高は20億円増収の310億円、営業利益は1億円増の37億円と予想しています。

(百万円)

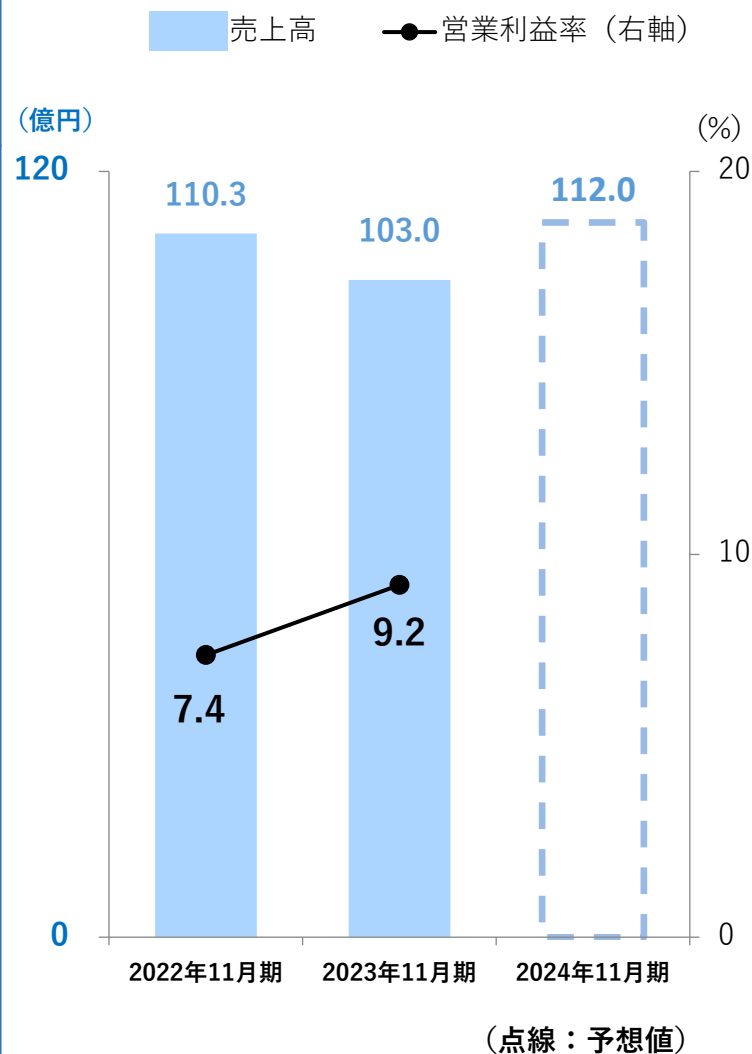
	2023/11 実績	2024/11 予想	対前年実績	
			増減額	増減率
売上高	28,907	31,000	+2,092	+7.2%
営業利益	3,577	3,700	+122	+3.4%
経常利益	3,877	3,900	+22	+0.6%
純利益*	3,270	2,700	△570	△17.5%
国内ナフサ (¥/KL) (当社推定)	68,150	70,000	—	—
為替 (¥/\$)	140	145	—	—

* 親会社株主に帰属する当期純利益

2023年11月期 売上高	2024年11月期 予想	比率 2023vs.2024(予想)
------------------	-----------------	-----------------------

103.0 億円	112.0 億円	+8.7%
-----------------	-----------------	--------------

売上高・営業利益率



●外部環境

- ・自動車生産は回復基調。
- ・テレビなどのディスプレイ関連は在庫調整が進み、回復傾向であったが、再度調整局面へ移行する気配。

●当社の状況

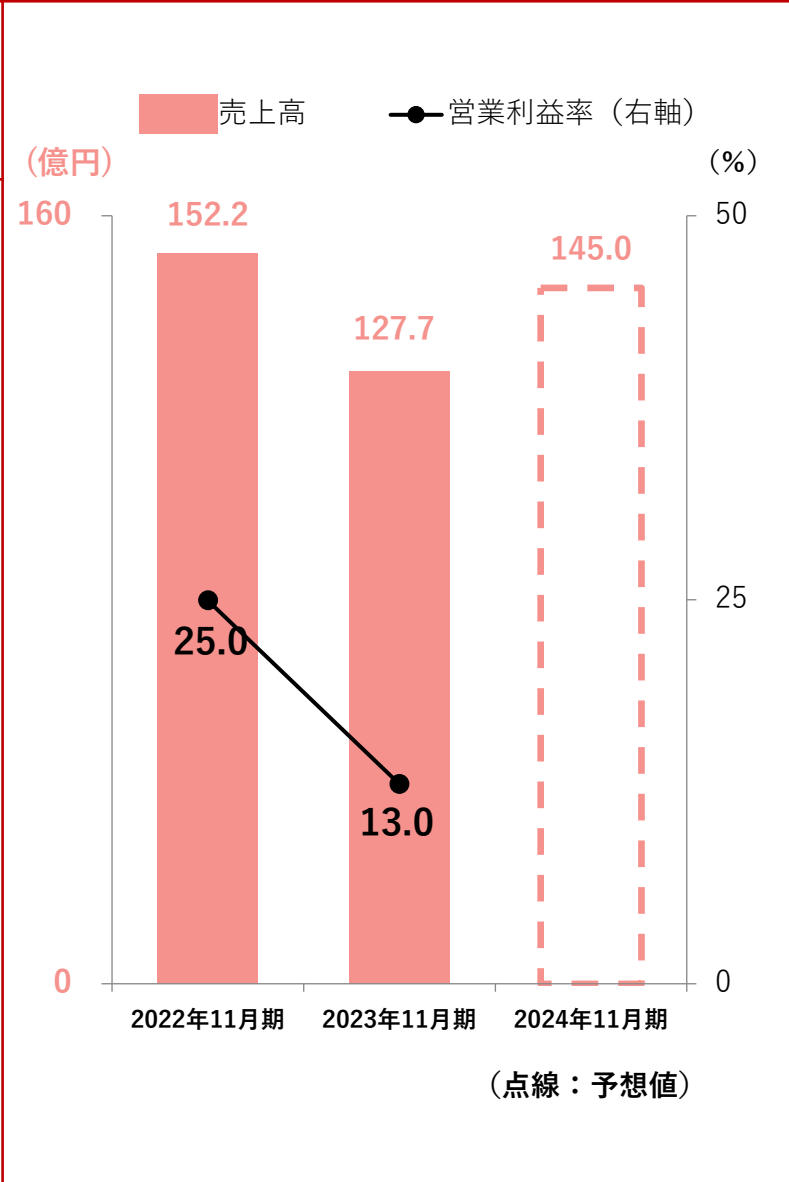
- ・自動車用塗料向けは堅調に推移する。
- ・ディスプレイ用粘着剤向けは、再度ディスプレイの調整の影響を注視する。
- ・UVインクジェット用インク向け材料は拡販に注力。

●市場におけるリスク

- ・原油価格の高止まり。
- ・天然由来原料相場の高騰。

2023年11月期 売上高	2024年11月期 予想	比率 2023vs.2024(予想)
127.7 億円	145.0 億円	+13.5%

売上高・営業利益率



● 外部環境

- ・半導体市場の市況悪化長期化、当初の想定以上に回復が遅れる気配。
- ・最先端のEUV材料は実用化が進展。
- ・ディスプレイ市場は回復基調であったが、再度調整局面へ。

● 当社の状況

- ・半導体材料用の新設備が稼働し顧客認定用の生産を進めていく。
- ・主力のArFレジスト用原料の販売は、下期に回復する予想。
- ・表示材料グループは、回復傾向であったが再度調整に転じ、軟調な状況が続く見込み。

● 市場におけるリスク

- ・米中経済対立の激化。
- ・半導体市場の回復の遅れ。

2023年11月
期
売上高

2024年11月期
予想

比率
2023vs.2024(予想)

売上高・営業利益率

58.2 億円

53.0 億円

△9.1%

●外部環境

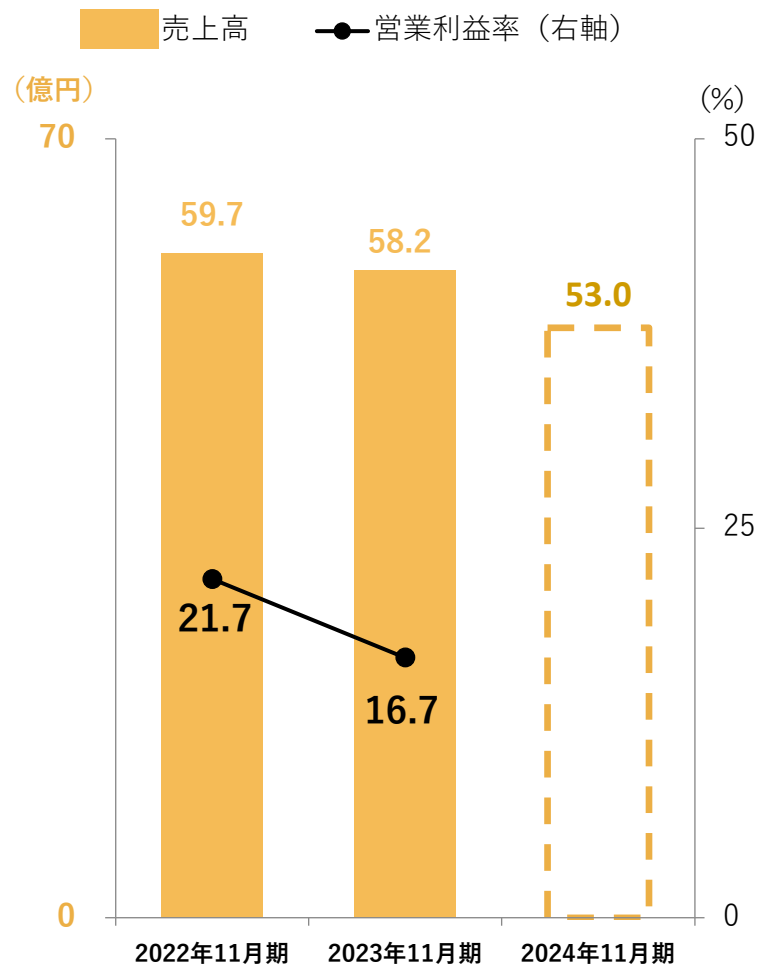
- ・海外の化粧品市場は、アフターコロナによる外出機会増などで本格的な回復に期待。
- ・国内の化粧品市場も、引き続き回復基調。

●当社の状況

- ・化粧品原料は、引き続き積極的な海外拡販を進める。
- ・機能材料グループは受託品が低調に推移。
- ・子会社の特殊溶剤の販売は、電子材料用途の回復を期待。

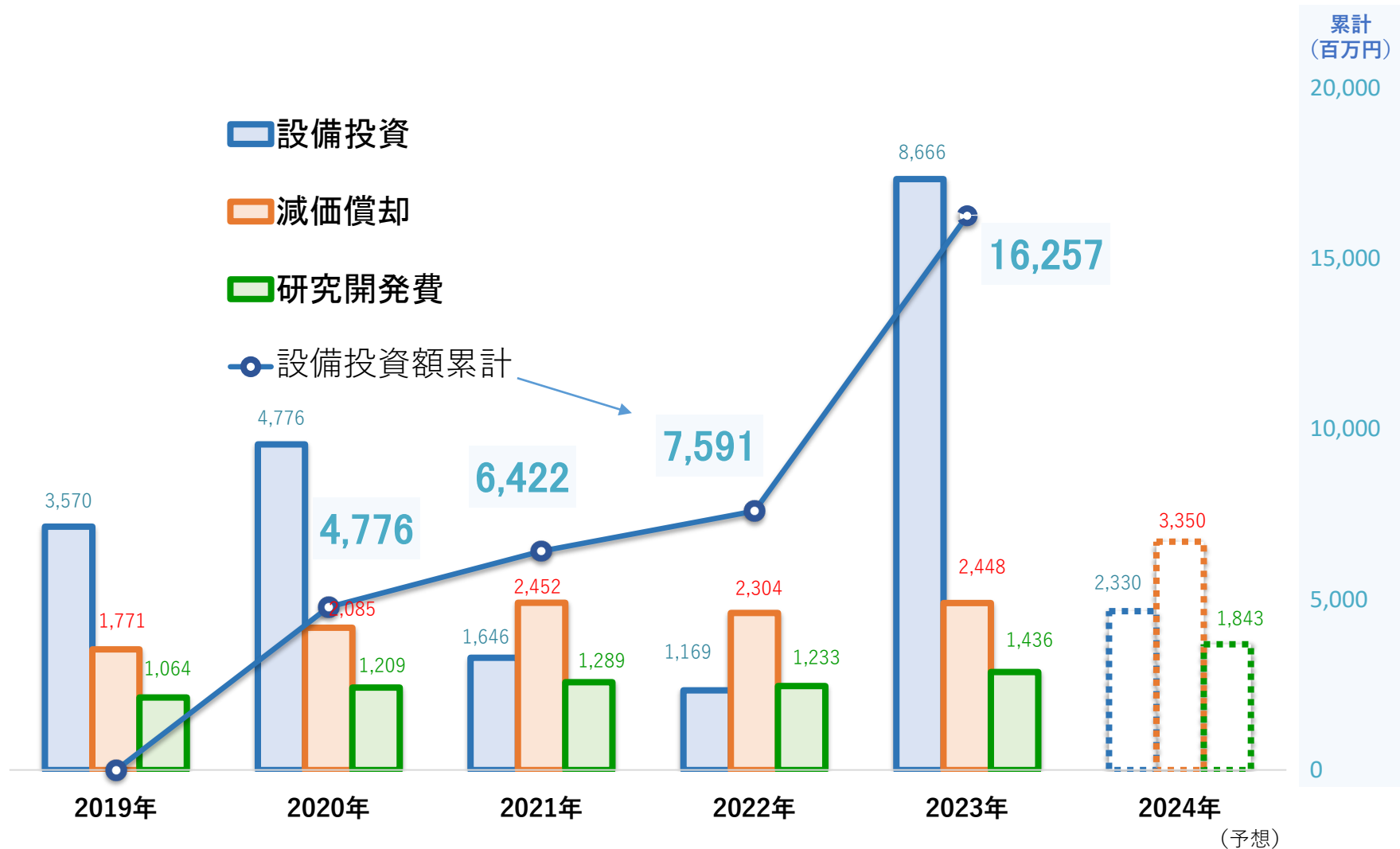
●市場におけるリスク

- ・中国による日本製品不買運動の深刻化。



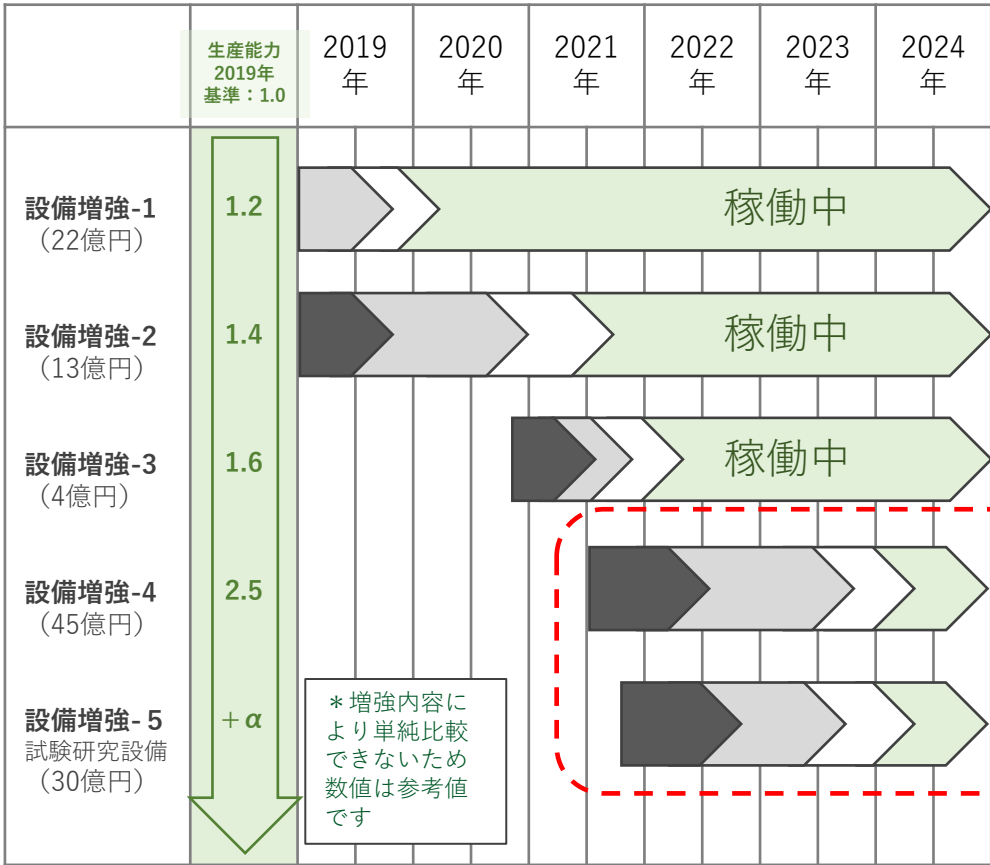
(点線：予想値)

中期経営計画に沿って、計画的に設備投資を進めています。
 2023年には半導体材料製造設備をはじめ、**86.6億円**の設備投資を行いました。
 2024年は減価償却費が増加する見込みです。

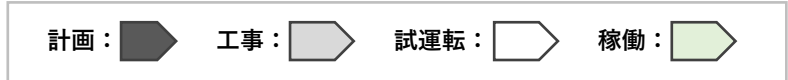


◇半導体市場は、2023年に大きく停滞しましたが、2024年より再び成長に転じると予測されています。
 ◇当社においても昨年、2つの大型設備が完成し、顧客要望に応えられるように体制を整えています。

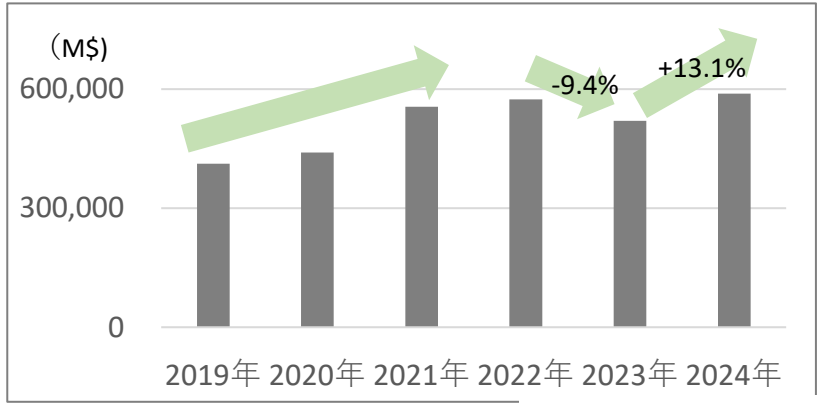
◆半導体材料製造設備の増設推移



・カッコ内は設備投資額



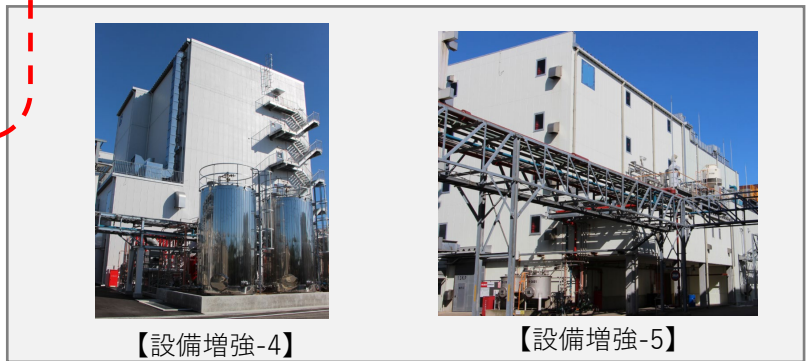
◆世界の半導体市場



【データ元：WSTS】

◆新設備の状況

昨年2つの新設備が完成。
 顧客認定取得のための試生産を実施中。
 2024年以降の市場回復に備えています。



株主還元と株価の推移

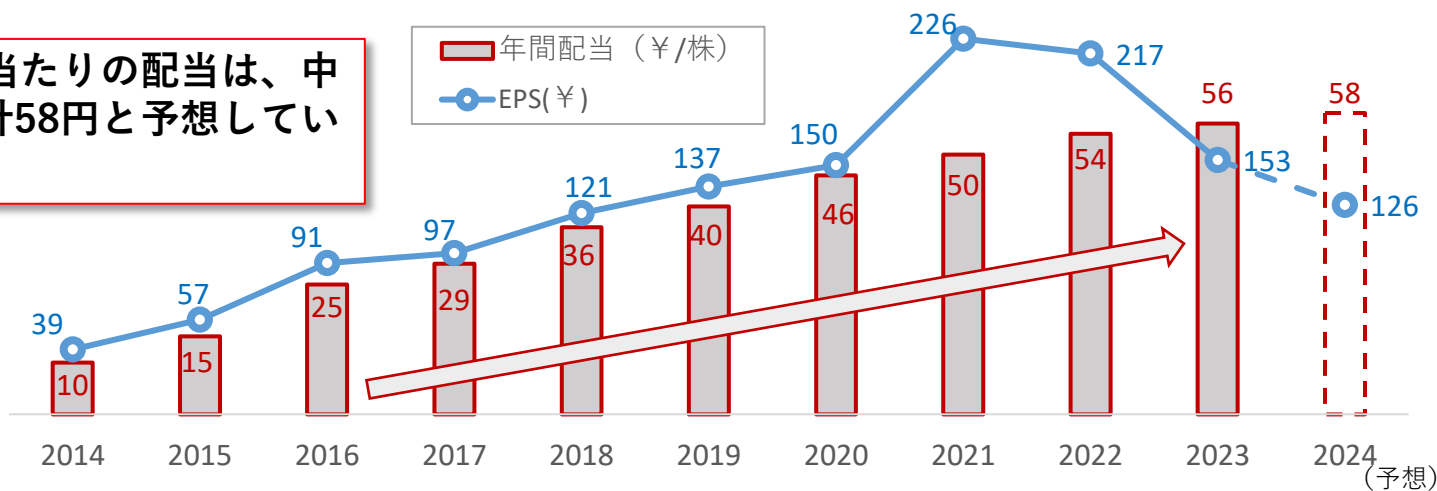
中長期経営計画の施策を実行し、順調に業績を伸ばしてきました。
業績の伸長に伴い、着実に増配を重ねてきました。

2014/12/1
株価：496円

2021/4/7
株価：4,635円

2023/11/30
株価：2,669円

2024年11月期の一株当たりの配当は、中間29円、期末29円の計58円と予想しています。



会計年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (予想)
EPS(¥)	39	57	91	97	121	137	150	226	217	153	126
年間配当 (¥/株)	10	15	25	29	36	40	46	50	54	56	58
配当性向 (%)	25.7	26.4	27.5	30.0	29.8	29.2	30.8	22.2	24.9	36.6	45.7
総還元性向 (%)	25.7	37.9	36.4	30.0	46.5	29.2	30.8	22.2	60.7	54.7	—

* EPS：1株当たり当期純利益

青文字：自己株式取得

01

2023年11月期 決算概要

02

2024年11月期 業績予想

03

企業価値向上に向けた取り組み

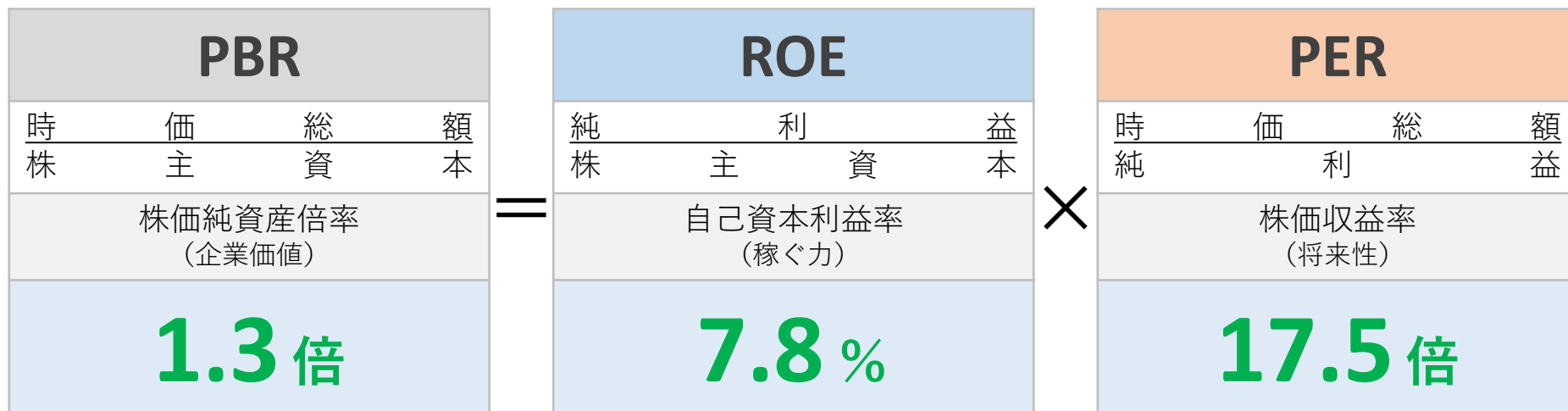
04

参考資料

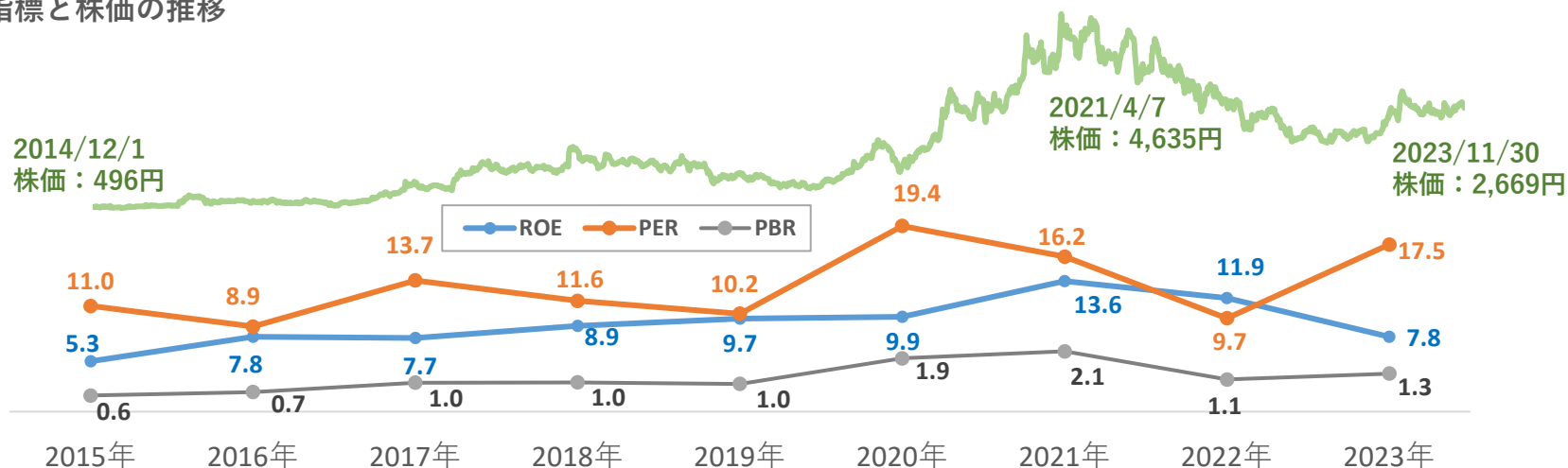
資本コストや株価を意識した経営について

2023年11月期末時点の当社のPBRは1.3倍で1倍を上回っていますが、ROEは7.8%と前年（11.9%）より大幅に低下しました。次期中期経営計画において経営指標に新たにROICを加え、資本効率を向上し企業価値を高める活動を実施してまいります。

2023年11月30日現在



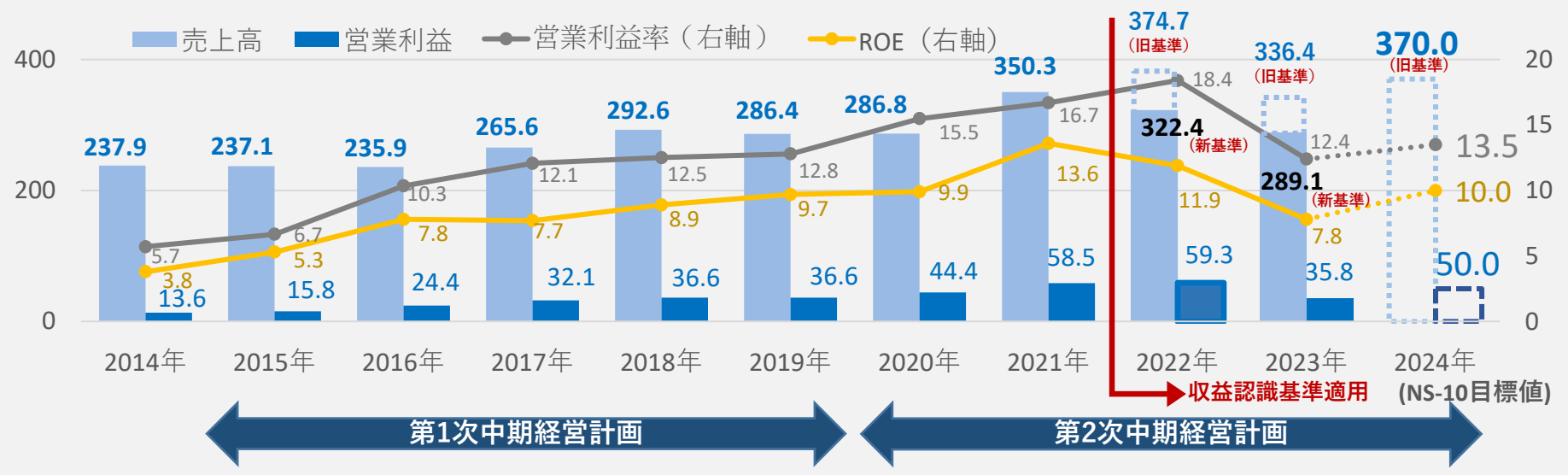
◆各指標と株価の推移



企業価値の向上

<p>稼ぐ力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 中期経営計画の推進 ◆ 企業価値向上に向けた成長戦略・戦略投資 	<p>ROEの向上</p>	<p>PBRの向上</p>
<p>資本効率の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 政策保有株式の見直し ◆ 事業ポートフォリオマネジメントの推進 ◆ 適切な投資戦略 		
<p>株主還元</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 安定的な配当の実施（中計目標） ◆ 適時適切な自己株式の取得 	<p>PERの向上</p>	
<p>ステークホルダーへの働きかけ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 機関投資家との積極的な対話 ◆ 個人投資家説明会の拡充 ◆ 各ステークホルダーへの開示・発信の充実 		

中長期経営計画；「**Next Stage 10**」（NS-10：2015年～2024年）の目標値が2022年度に達成された事に加え、会計基準の変更(収益認識基準の適用)があった事から、中期経営計画の見直しが必要と考え、NS-10を1年前倒しで終了することにいたしました。



Next Stage 10 振り返り

【財務実績】

- ・売上高 / 利益の大幅拡大を達成
- ・半導体事業が主力事業へ成長
- ・大型設備投資を実現(累積160億円)

【非財務実績】

- ・CO₂排出量の削減
- ・教育プログラムの強化
- ・人事制度の見直し

【課題】

- ・事業重点領域の拡充
- ・技術の戦略的な深堀
- ・海外市場への展開
- ・環境へ向けた取組み
- ・DXの推進
- ・人的資本経営

中期経営計画(P&D 2030)

Progress & Development 2030

Stage 1 (3年間：2024年～2026年)

- ・ NS-10の計画から成果を得る。
- ・ Stage2 へ向けた計画、育成を行う。

Stage 2 (4年間：2027年～2030年)

- ・ Stage1の計画から成果を得る。
- ・ 次期中計への成果へ向けた計画、育成を行う。
- ・ NS10、P&D2030で育てた新事業を拡大する。

	2023年11月期 実績	2026年11月期 Stage 1 目標	2030年11月期 Stage 2 目標
売上高	289億円	400 億円以上	500 億円以上
営業利益	35 億円	56 億円以上	75 億円以上
営業利益率	12.4 %	14 %以上	15 %以上
戦略投資・事業投資	—	累積 300 億円以上	
ROE	7.8%	10 %以上	12 %以上
ROIC	5.4 %	8 %以上	9 %以上
配当性向	36.6 %	40 %目安	

経営理念

わたしたちは、一人ひとりの個性を大切にし、ユニークな機能を備えた材料を提供することにより、お客様と共に社会の発展に貢献します

経営ビジョン

特殊アクリル酸エステルのリーディングカンパニーとして、グローバル市場に価値を提供する

中期経営計画

Progress & Development 2030

行動指針（抜粋）

わたしたちは、約束を守り、誠実に謙虚に向き合います

わたしたちは、お互いの良さを活かし、補い合い、チームで最大限の力を発揮します

わたしたちは、お客様のイノベーションに繋がるユニークな機能を備えた材料を提供し続けます

わたしたちは、安全を最優先し、無事故・無災害を目指します

事業領域

■重点領域の拡充

- ・最先端半導体材料への開発加速、周辺材への展開による半導体関連事業の拡大
- ・フォトレジスト材料の新規用途への展開
- ・親水性ポリマーの開発・評価技術を用いた、生体適合材料や新規電子材料用途への展開
- ・次世代事業領域開発に向けた、有機圧電材料、エラストマー材等の新規材料開発

■環境社会へ向けた材料

- ・非化石原料由来のアクリル酸開発、材料の完全非化石由来化への挑戦
- ・資源再利用技術やエネルギー効率向上プロセスによる製品の開発
- ・製品のLCA情報開示やそれに基づく環境負荷低減の見える化による環境社会への貢献

■海外戦略の強化

- ・中国、韓国、北米への販売会社設置、現地生産を含むチャネル戦略の強化
- ・事業領域に即したロケーションへの販路拡大、新規顧客の開拓

非事業領域

■環境社会への貢献

- ・カーボンニュートラルに向けた施策の実行
- ・環境市場向け製品展開による、持続可能な社会への貢献
- ・廃棄物の削減、資源再利用等、サーキュラーエコノミー実現に向けた技術の研鑽、技術的解決

■IT、DXの推進

- ・AI、MI等によるデータ解析の高度化
- ・蓄積データの活用、展開による品質向上、トラブルの防止、安全性の向上
- ・自動化、効率化推進による生産性向上

■人的資本経営に向けて

- ・労働環境、働き方の最適化による、社員の働きがいやエンゲージメントの向上
- ・雇用の多様化に向けた仕組みづくり、DE&Iの推進
- ・環境や戦略に合わせた教育、人財育成

■リスクマネジメントの強化

- ・コンプライアンスの徹底
- ・サプライチェーンの強靱化
- ・BCPの実行性強化

- ・効率的な投資、海外戦略の強化による事業成長やコスト削減による利益最大化により営業CFの拡大に努める。
- ・株主還元に関しては、配当性向40%目安とし、株主利益の向上につなげる。
- ・成長投資は、生産能力や品質、技術開発といった事業投資に加え、環境、DX、教育への投資を実施し、会社としてのレジリエンスを高めていく。

キャッシュイン

累積営業CF 約 600 億円

(経費計上投資等の調整後、税金支払い前)

- ・効率的な投資による事業成長
- ・海外戦略の強化による事業拡大
- ・効率化/自動化による生産性向上

- ・有価証券売買など
- ・株主還元以外の財務CF

キャッシュアウト

株主還元

- ・配当性向 40%目安
- ・機動的な自己株取得

累積投資 約 300 億円以上

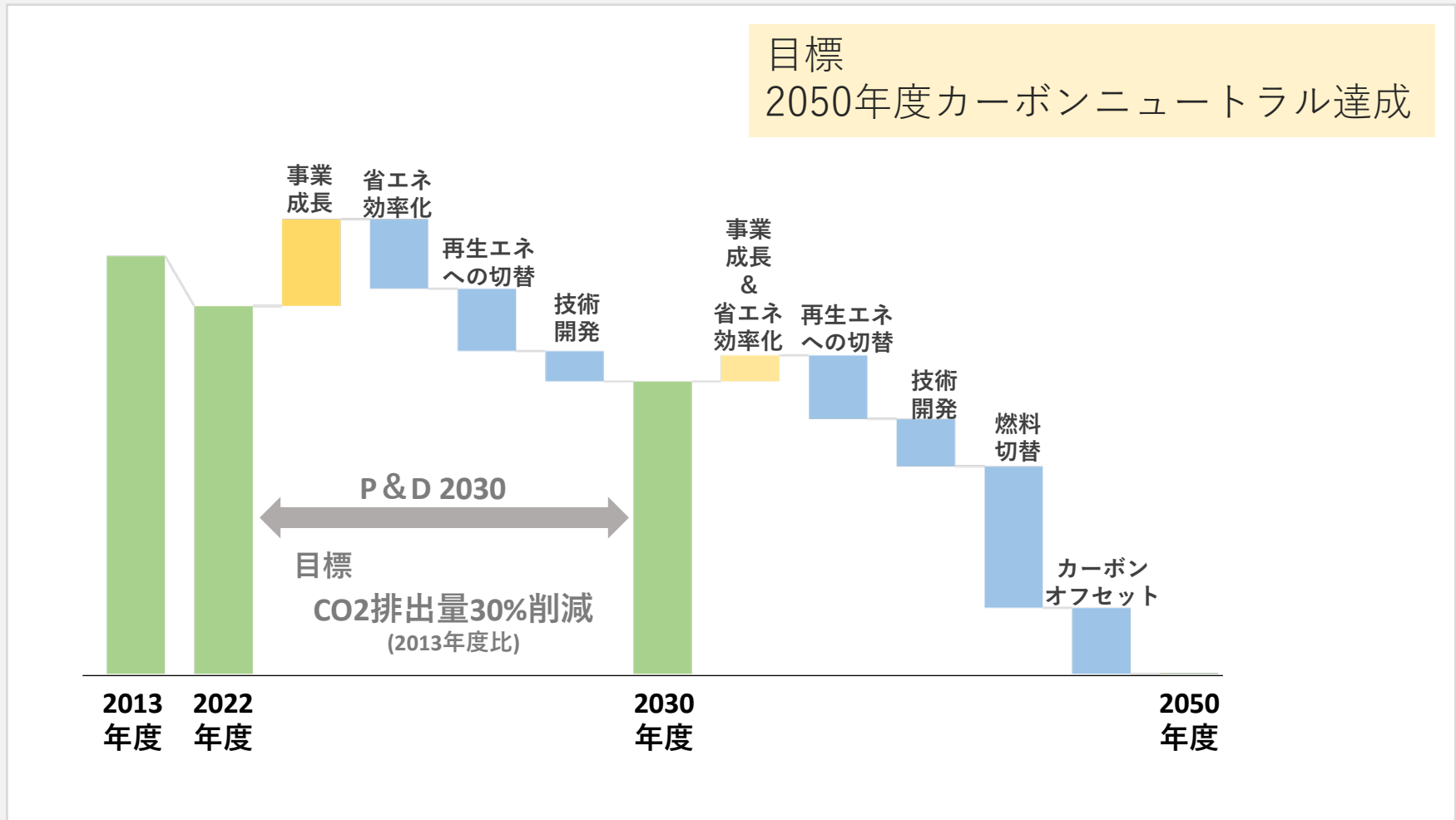
- ・維持投資 120 億円程度
- ・成長投資 180 億円以上
- ・半導体用材料などの生産能力向上
- ・新規事業の試作プラント建設
- ・研究開発や品質向上への投資
- ・廃物の再利用、再エネ等の環境投資
- ・IT、DXへの投資

その他

- ・運転資本の増加、法人税、手元資金充当など

※中期経営計画期間(7年間)の累積額

- ・ 2030年までは再生エネルギーの活用を進めながら、技術開発によるCO2削減策を模索し、目標達成を目指します。
- ・ 2030年以降では、技術開発での貢献を増加させつつ、燃料切り替えやオフセットにより、カーボンニュートラルを目指します。



IT方針とDXへの施策

- ・短期的には、ITによる省力化・効率化・高精度化を進め、生産性の向上や開発の高度化を図り、顧客ニーズの取得から製品上市までのリードタイム最短化や在庫最少化により既存のビジネスモデルを強化する。
- ・長期的には、全体最適化を基にDXへの足掛かりとなる仕組みを構築し、新たなビジネスモデルへ挑戦していく。

データ化

データのデジタル化



- ◇研究
実験データ、技術知見
- ◇製造
製造プロセス、実績値データ
- ◇営業
顧客、ニーズ、市場情報
- ◇SCM
在庫状況、生産スケジュール
受発注状況
製品別 法関連データ
製品別 品質関連データ
原価情報
- ◇管理
人事情報
経理情報
経営情報

データ共有化

共有化、見える化



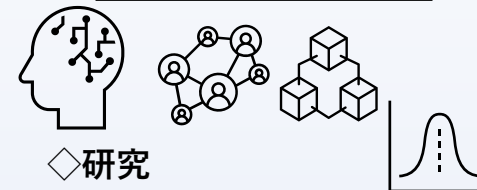
- ・最適なプラットフォーム
- ・BIツールの利用
- ・部署横断的な共有
- ・リアルタイムな情報見える化

自動化

- ・データ蓄積の自動化
- ・定型業務の自動化

データ利活用

AI・MIを用いた
データ解析の高度化



- ◇研究
新たな知見の創出
研究開発速度の向上
- ◇製造
生産プロセスの最適化
- ◇営業
戦略的な営業活動
新規市場・顧客の開拓
在庫の最適化
- ◇SCM
生産計画の最適化
物流プロセスの最適化
- ◇管理
経営判断の最適化
クリティカルな人事施策
- ◇全体
トラブル・ミスの防止

事業の
変革

01

2023年11月期 決算概要

02

2024年11月期 業績予想

03

企業価値向上に向けた取り組み

04

参考資料

営業外損益

営業外収益では、受取配当金や為替差益が減少しました。

営業外費用では自己株式取得費用が減少しました。

特別損益

特別利益では固定資産売却益が減少し、投資有価証券売却益が増加しました。

特別損失では、固定資産除却損が減少しました。

	2022/11	2023/11	増減額		
			(百万円)		
営業外収益	452	313	△139	→	受取配当金 △32百万円 為替差益 △76百万円 受取保険金 +72百万円 その他 △68百万円 他
営業外費用	21	13	△8	→	自己株式取得費用 △10百万円 他
特別利益	462	587	+125	→	固定資産売却益 △426百万円 投資有価証券売却益 +550百万円 他
特別損失	18	9	△9	→	固定資産除却損 △10百万円 他

青字：利益増加要因

赤字：利益減少要因

貸借対照表

	(百万円)			
	2022/11	2023/11	増減額	
資産				
流動資産	28,082	27,101	△980	売掛金 △852百万円 他
有形固定資産	18,470	20,443	+1,972	建物及び構築物（純額） +1,551百万円 機械装置及び運搬具（純額） +4,800百万円 建設仮勘定 △4,265百万円 他
無形固定資産	116	102	△13	
投資その他の資産	6,166	6,988	+821	投資有価証券 +881百万円 他
負債				
流動負債	9,169	7,098	△2,071	支払手形及び買掛金 △719百万円 未払法人税等 △801百万円 他
固定負債	2,272	3,909	+1,637	長期借入金 +1,433百万円 他
純資産	41,394	43,629	+2,234	
総資産	52,836	54,636	+1,800	利益剰余金 +2,093百万円 他

今後の財務指標

	2023/11時点	今後の目安
自己資本比率	78.7%	—
手元流動性比率	2.8ヵ月	3.0～4.0ヵ月
DEレシオ	0.12	0.2以下
ネットDEレシオ	-0.07	0以下（実質無借金）
インタレスト・カバレッジ・レシオ	575	200～400倍

(百万円)

	2022/11	2023/11
営業活動によるCF	4,727	4,370
投資活動によるCF	△4,852	△4,127
財務活動によるCF	△1,564	△476
現金及び現金同等物に係る 換算差額	160	58
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,529	△173
現金及び現金同等物の 期末残高	8,064	7,890

[主な内訳]

税金等調整前当期純利益	4,455百万円
減価償却費	2,428百万円
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	1,224百万円
法人税等の支払額(△は支払)	△1,920百万円
他	

有形固定資産の取得による支出 △4,708百万円
(半導体材料製造設備等) 他

長期借入による収入	3,300百万円
長期借入金の返済による支出	△1,934百万円
自己株式の取得による支出	△602百万円
配当金の支払額	△1,177百万円
他	

< 将来情報に関する注意事項 >

本資料の業績予想や経営計画は、現時点において見積もられた見通しや計画であり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績等は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。

【お問い合わせ】
管理本部 IR・広報担当
TEL 06-6264-5071 (代表)



“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー

大阪有機化学工業株式会社

東証プライム：4187